

乙 頁

第111号 通巻20巻第2号
2000年7月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎・FAX 077-585-4397

〒524-0212
守山市服部町2250番地

☆中世の井戸を発掘☆

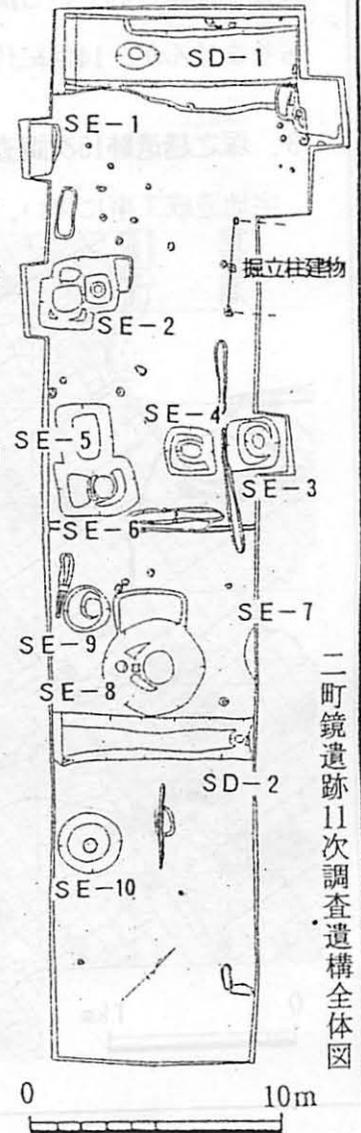
1. 二町鏡遺跡11次調査（二町町字堂ノ内）

宅地造成工事に先立ち、道路部分の約380㎡を対象に発掘調査を実施しました。今回の調査地は二町鏡遺跡の北端にあたります。

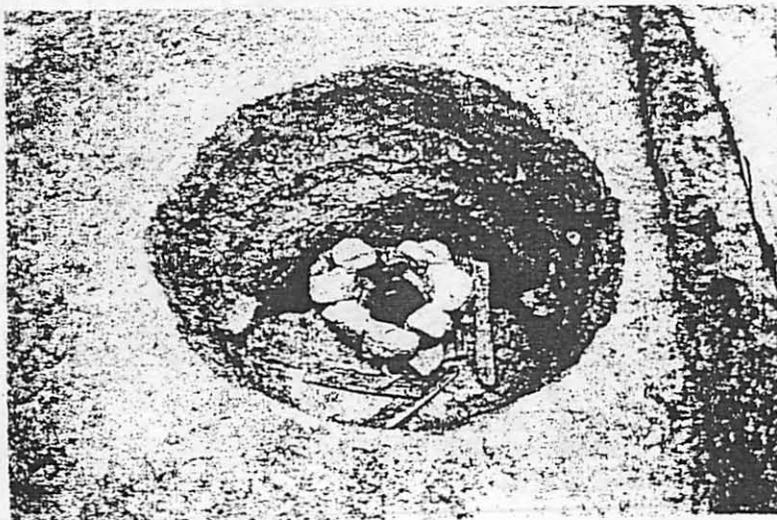
調査の結果、中世の屋敷跡が検出されました。建物跡は僅かしか見つかりませんでした。この狭い調査地内から井戸（SE-1～10）が10基も見つかりました。このうち、SE-6・8は^{まげらの}曲物が残存していました。また、SE-10は石組の井戸で、内側に^く削り抜きの^{いっぽ}井筒があり、その下に水溜用の曲物が設置されていました。SE-2・4・5・10からは、何に使われたかはよくわかりませんが、^{せきしよくがんりょう}赤色顔料が少量見つっています。このほか、SD-1・2は屋敷地を区画する溝と考えられます。遺物は井戸や溝などから、土師器皿や黒色土器碗をはじめ、信楽や瀬戸などの中世陶器、輸入陶磁器、^{がしつ}瓦質の火鉢などが出土しています。遺構の年代は、出土遺物からSE-8が12世紀後半～13世紀初め頃、それ以外は13世紀末～14世紀代に埋没したと考えられます。

調査終了後、擁壁工事に伴い調査地の北西端の立会調査を実施したところ、SD-1と平行に延びる溝を検出しました。この溝は調査地の北隅で南東方向に屈曲していました。これまでの調査成果から考えると、集落の外側をめぐる溝の可能性が高いと考えられます。

（藤原）



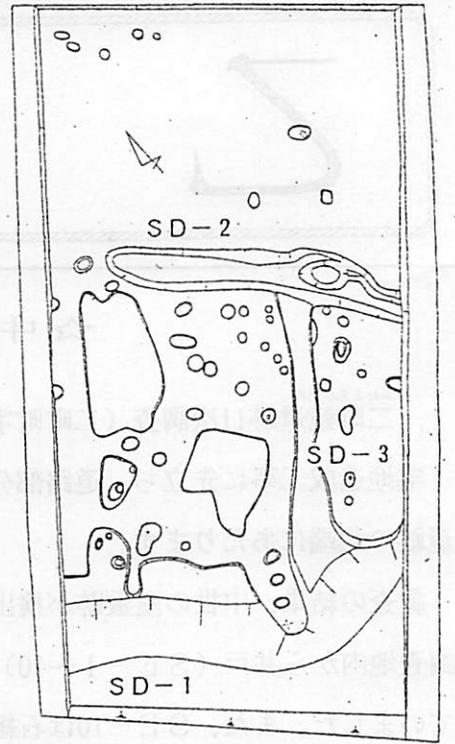
井戸（SE-10）出土状況写真



ふたまちかがみ
2. 二町鏡遺跡12次調査（二町町字堂ノ内）

宅地造成工事に伴い、道路部分の約106㎡を対象に発掘調査を実施しました。調査の結果、水田から約30cm下から溝、土坑、ピットなどの遺構を検出しました。調査地の南端で見つかった溝（SD-1）からは、土師器、黒色土器などのほか、十数枚重なった銭貨（銅銭）が出土しました。銭貨は錆と土が付着しているため文字は読めません。また、調査区のほぼ真ん中を東から西へ走る溝（SD-2）は徐々に浅くなり、途中で途切れています。この溝と直交する溝（SD-3）は深さ3cm程度の浅い溝でした。

今回検出した溝は、これまでの調査で検出されている屋敷地を区画する溝の一部と考えられます。特にSD-1は、隣地の調査で確認されている溝と一致します。全体に遺物量は多くありませんが、14世紀代の年代が考えられます。（畑本）

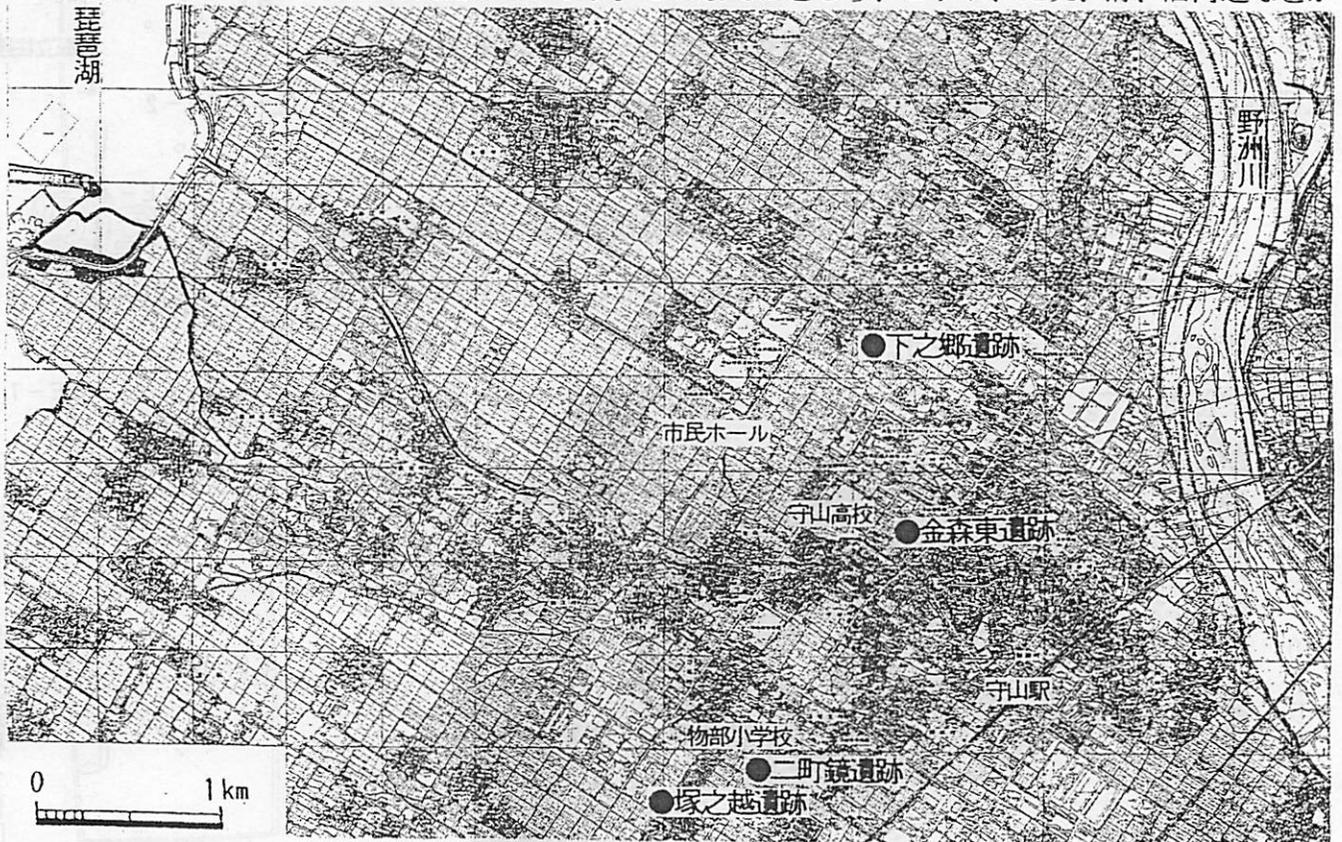


0 10m

二町鏡遺跡12次調査遺構全体図

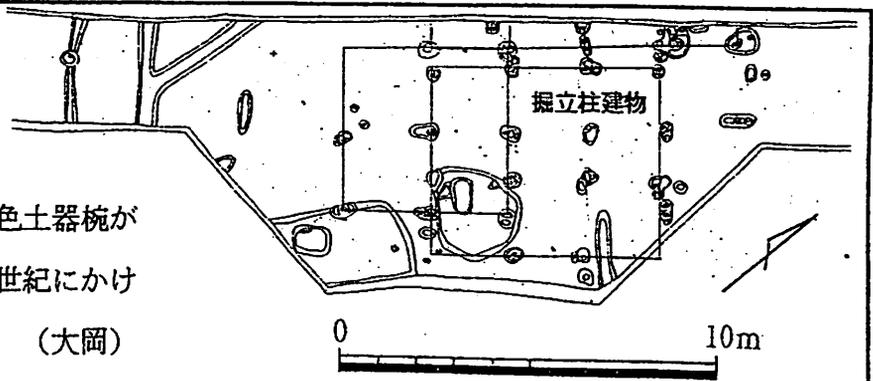
つかのこし
3. 塚之越遺跡15次調査（古高町）

宅地造成工事に伴い、調査を実施しています。これまでのところ、ピット、土坑、溝、旧河道などが



発掘調査位置図

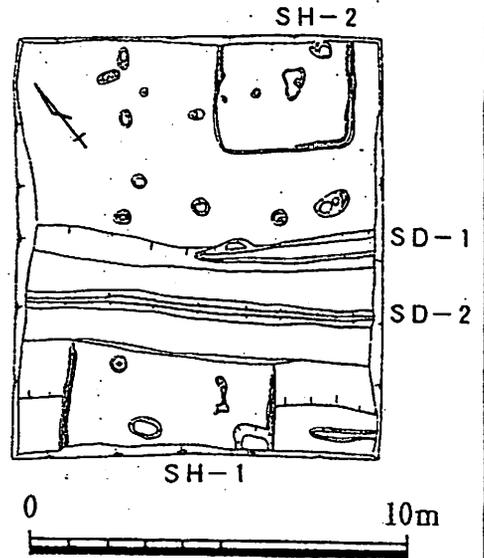
多数検出されています。そのうち、ピットが20基ほど集中する地区があり、3棟以上の掘立柱建物ほったてばしらたものがあったと考えられます。出土遺物には土師器皿や黒色土器碗があり、これらの遺構は12世紀後半～13世紀にかけての時期と考えられます。(大岡)



塚之越遺跡15次調査遺構平面図

4. 金森東遺跡22次調査(守山三丁目)

守山町土地区画整理地内で、個人住宅建築に先立ち発掘調査を実施しました。調査の結果、古墳時代の竪穴住居2棟(SH-1・2)と溝2条(SD-1・2)、柱穴等を検出しました。SH-1は調査地の西隅でその一部を検出しました。一辺約5mを測る方形住居で、残存壁高は60cmと残りが良く、床面で柱穴2つと南東辺中央で、貯蔵穴1つを検出しました。床面から出土した土器から、古墳時代初頭の時期と推定されます。SH-2は調査地東端で一部を検出しました。一辺約4mを測る方形住居で、床面から3cm程しか残っていませんでした。出土遺物から古墳時代初頭の時期とみられます。SD-1は幅約70cm、深さ50cmを測る溝です。断面形が逆台形をしており、古墳時代後期の土器が出土しています。SD-2はSH-1とSD-1を切って東西方向に流れる大溝で、幅5m、深さ70cmを測ります。堆積土の観察から2条の溝が重なっていると考えられます。

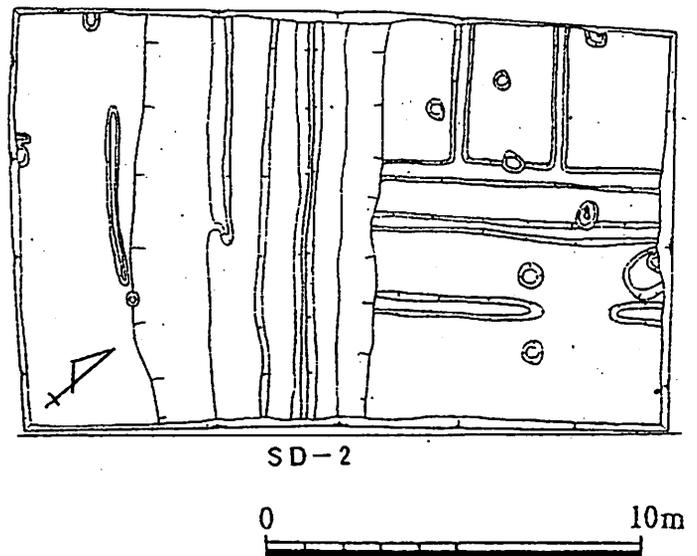


金森東遺跡22次調査遺構全体図

今回の調査で、古墳時代初頭の集落がこの地点まで広がっていることが確認されました。(伴野)

5. 金森東遺跡26次調査(守山三丁目)

守山町土地区画整理地内で、個人住宅建築に先立ち調査を実施しました。場所は22次調査地点の西側隣接地で、大溝の続きが検出されるものと予想していました。調査の結果、SD-2の続き部分が検出された他、柱穴が幾つか検出されました。柱穴の一部は東西方向に並び、建物か柵が想定されます。柱穴から出土した土器から、古墳時代後期の時期が推定されます。(伴野)



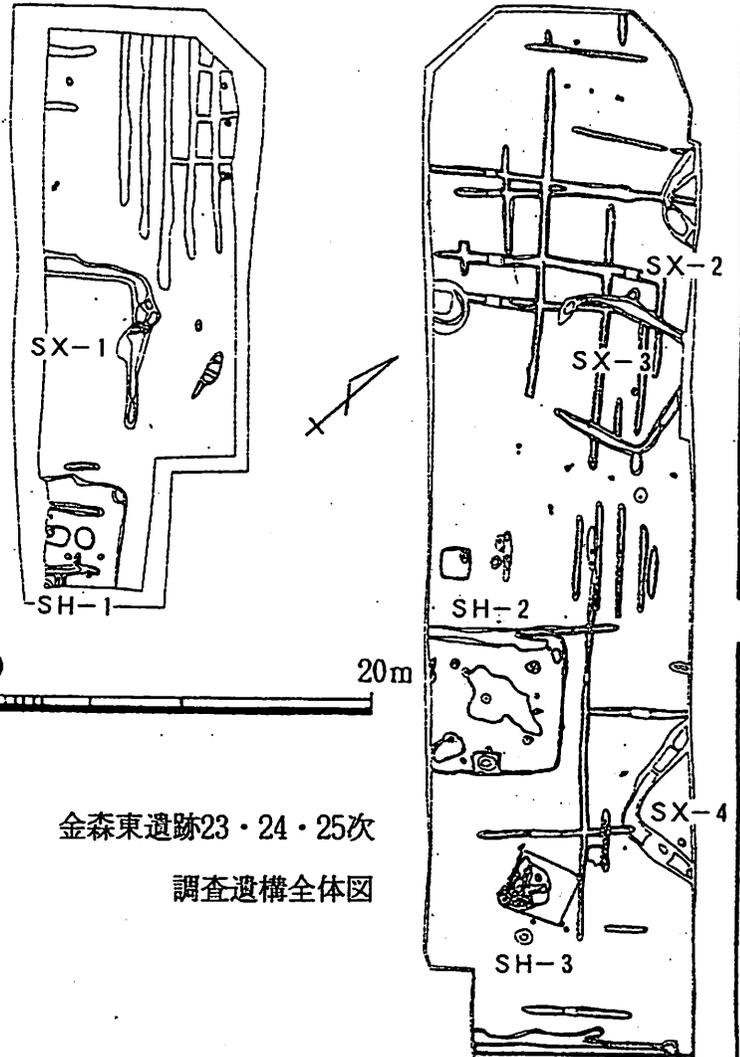
金森東遺跡26次調査遺構全体図

6. 金森東遺跡23・24・25次調査（守山三丁目）

守山町区画整理地内で、個人住宅及び共同住宅建築に先立ち、発掘調査を実施しました。調査の結果、古墳時代の竪穴住居3棟（SH-1～3）と方形周溝墓^{ほうけいしゅうこうぼ}4基（SX-1～4）などを検出しました。竪穴住居のうち、SH-3は削平のため、支柱穴と貯蔵穴しか残存しておらず、規模や平面形、年代についてはよくわかりません。SH-1・2はいずれも方形住居で、年代は古墳時代初頭頃と考えられます。

方形周溝墓の年代は出土遺物から、古墳時代初頭頃と考えられます。金森東遺跡で、この時期の方形周溝墓が見つかったのは初めてであり、集落の東端に墓域が存在することがわかりました。

（小島）

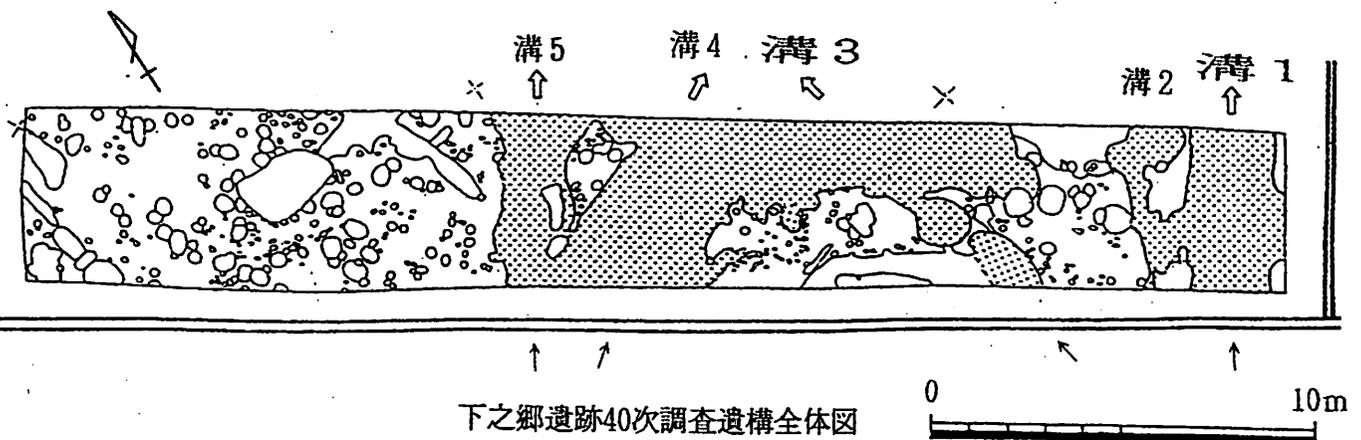


金森東遺跡23・24・25次
調査遺構全体図

7. 下之郷遺跡40次調査（下之郷町）

下之郷遺跡では、弥生時代中期の環濠集落^{かんごうしゅうらく}の範囲や地下の状態を調べるために、文化庁と滋賀県教育委員会の指導を得て、確認調査を実施しています。今回の調査の目的は、環濠集落内部に想定される南北の区画溝^{おとさだ}（『乙貞109号』で紹介）の存在を確認することです。その結果、5条の溝と400を超える柱穴が検出されました。見つかった5条の溝については、一部確認のため断ち割りを行った結果、いずれも深さは40～60cm程でした。これらの溝が南北の区画溝にあたるかどうかは、さらに周辺を確認しなければなりません。予測された場所で溝が検出されたことは大きな成果です。

（川畑）



下之郷遺跡40次調査遺構全体図